

2025 年度 秋山喜代賞 受賞者

[株式会社 The St Monica](#)

代表取締役

七戸 千絵 様



1. 「The St Monica」の誕生

薬剤師として北海道の総合病院に勤務したのち、

夫の転勤で東京へ。第一子は麻酔が利かないままでの緊急帝王切開、第2子は子宮破裂の難産に見舞われ緊急手術を受け死線をさまよった経験から「命」について考えるようになりました。科学や医療の発展によって便利になったと感じる一方で、母親として生命を預かる重みや子育てを通し、医療では補いきれないケアがあると感じ、代替医療として、手を当て包むことのコミュニケーションや子供の成育の補助、産後の母親の鬱などを予防するアロマセラピーやベビーマッサージを学びました。

The St Monica を開業し、東京の総合病院産婦人科外来でベビーマッサージクラスを運営する中で、お子さんの肌荒れや、おかあさんの産後の精神的ストレスが必要以上に多いことを知り、肌や身の回りにつけるものの重要性に気づき、保存料や人工的な原料を使わず環境負荷をできるだけ少なく循環できる化粧品の製造にかかわる一歩を踏み出しました。そして、赤ちゃんの誕生時、日本ではお母さんに「おめでとう」と言う習慣があまりなく、産後はどんな状態でも母親が子育てを行うものと孤独な母親が多い事に気づきました。母親の健全な精神を保つことで、健やかな子育てができるよう BABY & MOTHER という商品名にしました。



2010年札幌にUターン後、[株式会社 The St Monica](#) を法人化。赤ちゃんから使える肌に優しい天然素材で、無着色・無臭・無添加にこだわって作られた安心安全なスキンケア商品を企画・販売。2011年には、北大農学部名誉教授寺沢実先生の技術指導と仁木町自然農園株式会社と協働のもと、「6種の有機ベリーと白樺樹液のコーディアル」や「天然馬油泡石けん」を完成。お肌のデリケートな赤ちゃんや妊婦さんに好評の「天然馬油クリーム」は商工会議所「[北のブランド](#)」や札幌市経済局「[札幌スタイル](#)」の認証を受け人気の定番商品となり、2022年9月に「[セントモニカ直営店](#)」をオープンしました。

2.未来につながるスキンケア愛用

セントモニカは、今だけでなく未来のことまで見据えたものづくりを心がけています。医学、薬学で学んだ漢方や西洋医学に基づく一物全体の理論を元に、原料の使用比率や目的を商品のコンセプトや対象者に合わせ選んでいます。環境への配慮はその代表で、製品のパッケージにはリサイクル可能素材を採用したり、過剰包装を避けたりとエコフレンドリーな工夫を凝らしています。また、原料調達から製造までの過程でも廃棄物削減やエネルギー効率に配慮し、原料を地元で採取することで輸送に伴う環境負荷を減らし、地産地消によって地域経済にも貢献しています。北海道の美しい自然を守りながら、余すところなく活かしたセントモニカの製品には、自然の力と作り手の情熱が凝縮されています。

3.産学官連携による商品開発

大学との共同研究や企業・イベントとのコラボ、プロジェクトによる企画・開発・コンサルティングを行い、地域とのつながりを大切にしながら北海道の良質な原材料に特化したコスメと食品を産学官連携で開発しています。地元の方々と交流しながら、生態系の保護や地域資源の再生に関わることで、単に製品を売るだけでなく地域社会に根ざした活動を展開、昨今は将来を見据え学校法人と学生との共同事業に基づいた製品化を行っています。商品の製品化の一部の作業は社会福祉法人と行っております。

・石狩浜ハマナス再生プロジェクト(2017～2025)

北海道庁の指定花であるバラの原種「ハマナス」の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいとスタートした「[石狩浜ハマナス再生プロジェクト](#)」の一環として、ハマナスを素材にしたプロダクトを開発。ハーブティーをはじめ、ハマナス美容液などの EZO ROSE シリーズ商品を開発。



・ローズマリー化粧品開発(2021)

頭脳明晰、集中力・記憶力を高めるといわれる「ローズマリー」を素材とした化粧品を「ガーデンフェスタ北海道 2022」(恵庭市) とのコラボ商品として東川町と旭川医大と共同開発。

・MINAMINA のど飴(2021～2024)

コロナ禍でのマスク生活による唾液の分泌が低下、口腔内の自浄作用の減少を危惧し、抗菌成分をもつアイヌの養生食「キハダの実」を使用し、北海道科学大学「北の大地ライフサイエンス創生研究所(CRILS)」([共同研究](#))、ウポポイ(商品開発)、アイヌ服飾研究の第一人者津田命子氏(パッケージデザイン)と協働で開発。北海道科学大学 100 周年記念寄附返礼品として採用。



・藤女子ブランド up プロジェクト～藤の花からつなげるみらい～(2023)

学園内で摘み取った藤の花を使い、大学への想いを寄せる同窓生として学生と一緒に自然派化粧品「フジバーム」の製品化に携わる。学園創立 100 周年記念の[藤女子大学寄付返礼品](#)として採用。また、藤女子大学人間生活学科プロジェクトマネジメント専修との[共同研究](#)はコーセーコスメトロジー研究財団の 2023 年度の研究助成対象（精神、文化に関する分野）を受賞。



・HOKKAIDO WOOD アカエゾマツ保湿バーム&保湿ミスト(2024)

森林浴効果によるリラクゼーション効果のある弟子屈町北海道産アカエゾマツの精油と芳香蒸留水を使用した商品を開発。アカエゾマツは酪農学園大学名誉教授横田代表が務める一般社団法人 Pine Grace により、「動物による真菌におけるアカエゾマツの皮膚へのエビデンス」や「アカエゾマツの精油によるコルチゾールの低下による疑似森林浴効果」など、リラクゼーション作用のレポートに基づく。



・ペンケウタシュナイシリーズ(2025)

かつて「炭鉱のまち」として栄え、現在、日本一人口が少ない「市」であり、小学3年生まで過ごした[北海道歌志内市とのコラボ商品](#)。地元の温泉水、神威岳の蜂蜜とミツロウ、そして市木のナナカマドの炭を使って体に優しい石けんとクリームを開発。香りや肌触りだけでなく、炭の黒色と歌志内を象徴する神威岳を墨絵で表現したパッケージは、使う人の炭鉱の記憶や感覚にも語りかけるような“まち”と共につくったプロダクト。炭鉄港（日本遺産）認証商品。



4.女性起業家として

地域の高齢者も巻き込んだ支援の成功例（「赤ちゃん八百屋ほっと村」）として、「よみうり子育て応援団大賞」を受賞した経験から、子育てママと家族支援、女性の起業や就業についての講演を長年行ってきました。現在は北海道中小企業同友会産官学連携協議会副代表を務めながら産学官についての講演を行い、札幌市の官民対話事業「[Meet for the Next 2023](#)」では「地域力」をテーマに、札幌市に後押ししてほしいことや今後連携したいアイデアを秋元市長と意見交換しました。

これからも「女性特有の経済格差や女性に責務が集中しやすい出産、子育ての選択や介護をしながらも離脱しない職場の勤務体系の創設」という理念のもと、自らが女性経営者として活躍し参画する女性メンバーにとってもロールモデルとなり、活躍のしやすい場を提供したいと思っています。

5.おわりに

2010年にこの会社を立ち上げて以来、健康をサポートするために自身の手で北海道の自然と向き合い、生産者と直接対話しながら北海道で自然に育つ花や葉からコスメや食品をつくり、環境負担のないカタチを選んできました。自然栽培された資源の価値を多くの人に知ってもらい『本質的な魅力を守っていききたい』と思っています。

子どもを2人育てていく中で芽生えてきた自然栽培・無農薬・保存料なしへのこだわりを持ち続け、自然から生まれるもので医療だけではカバーしきれない部分にアプローチしていきたい。そんな大きな目標を叶えるための小さな一歩ですが、必ず価値のある一歩にしていきたいと考えています。

医術の家に生まれ育ち、生死の境を体験したお産が与えた経験が、人々の役に立つものを創造するテーマとなりました。困難な時も前を向いて生涯を尽くす力になる 秋山喜代賞 の受賞に心より感謝いたします。



【関連記事サイト】

<https://ameblo.jp/stmonica/entrylist.html>

<https://stmonica.info/trico2022/>

<https://hokkaido-tsunagaru.com/blog/?p=3245>

<https://readyfor.jp/projects/11726>

<http://sapporojinzukan.sapolog.com/e424889.html>

<https://www.danjyo.sl-plaza.jp/rolemodel/files/2014/model01.pdf>